

式年大祭 御船祭

常陸國一之宮
鹿島神宮

令和八年九月二日齋行



御船祭記念授与品のご案内

鹿島神宮 香取神宮 式年大祭双宮守

故事にある鹿島神宮の御祭神 武甕槌大神様と香取神宮の御祭神 経津主大神様の二柱が協力し、我が国の国譲りを成就したという伝承にあやかり、鹿島神宮の龍頭船（御座船）香取神宮の鶴首船が施された「式年大祭双宮守」を奉製いたしました。鹿島神宮では龍頭船を施したお守りを授与、香取神宮では鶴首船を施したお守りを授与致します。

この二つを組み合わせることで「式年大祭双宮守」が完成します。両宮の御祭神の御利益が一体のお守りに宿る、非常に珍しいお守りです。



鹿島神宮・香取神宮の両宮を合わせた双宮守



香取神宮で授与 初穂料1000円



鹿島神宮で授与 初穂料1000円

御座船みくじ

九月二日御船祭にて御祭神の御神輿が奉載される龍頭船（御座船）。その御座船を模した陶製の御座船みくじを令和八年限定にて頒布致します。御祭神の龍頭船（御座船）は、龍頭船という平安時代から室町時代まで盛んに行われた貴人たちの船遊びに使用された貴人に乗せる御座船に由来し、龍の頭を載せた船を龍頭、水鳥の頭を載せた船を鶴首とよび、二隻を一对とし龍頭鶴首と古来より呼ばれています。



初穂料500円

相川七瀬 御船祭御朱印帳

歌手の相川七瀬さんがデザインし、御船祭を奉祝して調製された令和八年限定の龍頭船（御座船）の刺繍が施された御朱印帳です。表紙には、御座船（龍頭船）が水上を雄々しく渡る刺繍が施され、九月二日に御祭神を載せた御座船が水上を渡る情景を表現しています。



令和8年正月より授与予定。初穂料2000円

鹿島神宮交通アクセス

○高速バス 東京駅八重洲南口発「かしま号」

東京駅八重洲南口 片道運賃（現金）2,100円 / 片道運賃（IC）1,950円 鹿島神宮 停留所 徒歩5分

※ Suica・PASMO等使用可 ※ 所要時間：約2時間 ※ 「かしま号」はジェイアールバス関東・関東鉄道・京成バスの共同運行です。

○電車

東京駅 総武本線・成田線 成田駅 成田線 佐原駅 鹿島線 鹿島神宮駅 徒歩10分

※時間帯によって乗り換えが異なる場合がありますので、事前にご確認のうえおいでください。また、鹿島臨海鉄道大洗鹿島線内（水戸駅-鹿島神宮駅）はSuicaやPASMOなどのICカード乗車券がご利用になれませんのでご注意ください。

全国の幹線や特急列車がインターネットで予約できる
便利でおトクなサービス

えきねっと

詳しくは [えきねっと](#) 検索

※この情報は2025年12月現在のものです。

常陸國一之宮
鹿島神宮

〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 2306-1
TEL 050-1724-5007
FAX 0299-82-1625

祭典 諸祭行事

令和8年

4/15 (水)

かとりじんぐう しきねんじんこうさい
香取神宮 式年神幸祭
かしまじんぐうおむかえさい
鹿島神宮御迎祭

6/7 (日)

ろうもん め
楼門くぐり初め
修繕が完了した楼門の完工を祝い、くぐり初めを斎行致します。

8/29 (土)

いみぐいきはらいしき
斎杭清祓式
香取神宮御迎祭の水上祭場に立つ斎杭をお祓りする祭典です。

8/31 (月)

ござおねきよはらいしき
御座船清祓式
御座船の装飾を終えた後、斎行致します。

9/1 (火)

10:00

ちよくしきんこうれいさい
勅使参向例祭
6年に一度の天皇陛下の御名代 勅使が参向する例祭です。

18:30

ちようちん
提灯まち
御祭神の道行きを照らす提灯を奉納する行事です。

20:00

じんこうさい
神幸祭
御祭神が本宮より行宮へ御遷りなる祭典です。



QRコードより前回の平成26年式年大祭御船祭の様子をご覧ください。



9/2 (水)

みふねまつり
御船祭
あんぐうごはつよさい
行宮御発興祭
行宮より発興（出発）する祭典です。

8:00

9:30

ごはつせんさい
御発船祭
大船津大鳥居下にて執り行う祭典です。

12:00

かとりじんぐうおむかえさい
香取神宮御迎祭
加藤州斎杭において、香取神宮神職によって行われる祭典です。

13:30

いたこかしはっせん
潮来河岸発船
潮来河岸から大船津へ向けて発船。

15:00

ごちやくせんさい
御着船祭
着船の後、斎行。陸上行列を組み町内神幸。

16:30

あんぐうごちやくよさい
行宮御着興祭
行宮にご到着された後、斎行。

9/3 (木)

10:00

あんぐうさい
行宮祭
行宮前にて斎行。

15:00

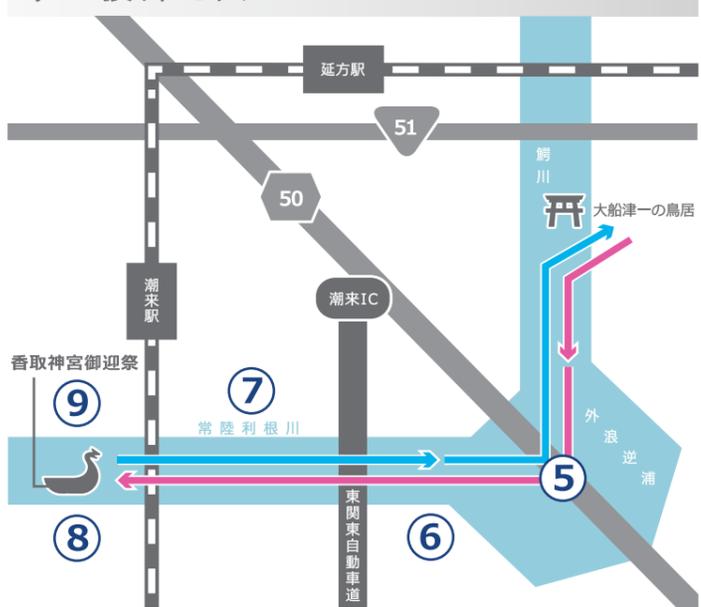
かんこうさい
還幸祭
町内神幸後、本宮へ還御する祭典。



二千年前より伝わる悠久の神事
鹿島神宮の「式年大祭御船祭」は十二年に一度、午年に斎行される大祭で、九月一日の例祭・神幸祭、二日の御船祭、三日の行宮祭・還幸祭から成る神事の総称です。古来より鹿島神宮最大の祭礼とされ、鹿島から香取までの広大な地域を舞台に、武甕槌大神の御功績を象徴する陸上行列や水上渡御が繰り広げられます。この一大渡御の目的は香取市加藤洲で、かつては香取神宮末社・津の宮まで渡りました。これは古代に神域とされた「香取の海」で行われ、「両宮の深い関係をしめすものです。特に「香取神宮御迎祭」において香取神宮の宮司が鹿島神宮の御座船で祝詞を奏上する儀礼は、両宮の繋がりを一番に表しています。御船祭は、鹿島の大神の御神威を「船」によって全国へ広め、国土の守護神としての使命を顕現する祭礼とも伝えられています。二千年の悠久の歴史を誇り、十二年に一度の稀少性と壮大な規模を備え、古代から続く信仰の姿を今に伝える、鹿島神宮を代表する神事です。

鹿島神宮「式年大祭御船祭」

水上渡御地図



陸水上渡御撮影・見学ポイント

- ① 大鳥居前
- ② がんげ交差点前
- ③ 鹿島小坂下
- ④ 大船津
- ⑤ 鰐川橋
- ⑥ 常陸利根川橋
- ⑦ 常陸利根川河岸
- ⑧ 加藤洲斎杭
- ⑨ 潮来船着場河岸

陸上渡御地図



地図下注意事項
※鹿嶋市・潮来市では各所交通規制が実施されます。また駐車場所にも限りがございます。お越しの際は、公共交通機関をご利用下さい。
※路上駐車はおやめください。公道でのご見学は周りの迷惑とならないようご注意ください。
※ゴミの持ち帰りにご協力下さい。
※仮設トイレの設置台数に限りがございますので、予めご注意下さい。
※ドローンを使用しての撮影は禁止とさせていただきます。



鹿島神宮は今から約二七〇〇年前、神武天皇元年（紀元前六六〇年）に創祀されたと伝わり、全国約六〇〇社ある鹿島神社の総本社です。『延喜式』神名帳において「神宮」と称されたのは伊勢・香取・鹿島の三社のみで、御祭神は「国譲り」「天孫降臨」「神武東征」に関わる武甕槌大神。国家建設と秩序確立に寄与した天津神であり、古来より国家鎮護の神として崇敬されてきました。御鎮座の地・鹿嶋は東方の要衝で神聖な霊地とされ、「常陸国風土記」には理想郷としての記述も見られます。こうした由緒から、歴代の天皇や藤原道長・源頼朝・徳川家康ら武將に至るまで篤い信仰を集め、現在も広く敬われています。

国家鎮護の神 武甕槌大神を祀る古社 常陸國一之宮 鹿島神宮由緒